ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

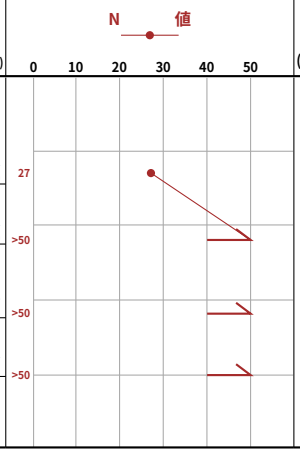
ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	B-2(橋梁右岸側)	調査位置				北　緯	36 ° 36 ’ 56.9600 ”
発 注 機 関	栃木県鹿沼土木事務所　整備部			調査期間	2010-02-27 ～ 2010-03-01	東　経	139 ° 32 ’ 48.8400 ”
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	686.71 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南 .00 °	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 0.00 °	使用機種	試 錐 機		ハンマー落下用具	
総 掘 進 長	4.02 m								エンジン		ポ ン プ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1 2 3 4	683.71	3.00	3.00		砂礫 (GS)	暗褐～暗灰褐	中ぐらい		現河成礫層 礫は径φ10～40mmの亜円・亜角礫主体 マトリックス(礫間充填物)は中～粗砂主体 所々に径φ50mm前後の粗礫混入 0.00～0.45mまで砂分優位 0.85m、コア長50mmの粗石点在 2.85m、コア長150mmの巨石点在 孔壁の自立性低い		02/27 0.40
	682.69	1.02	4.02		頁岩 (Sh)	黒～暗灰			基盤岩 コア形状は主に片状～短柱状 所々片状を呈す 風化変質は少なく比較的新鮮 節理は10～15cm間隔 節理面はやや暗褐色を呈す部位あり 4.45～4.55m間、礫状を呈す RQD150%（Max150mm） コア採取率95% 岩級区分CMと判定		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	10	9	8	27／30	27
1.45					
2.15	50			50／10	>50
2.25					
3.15	50／8			50／8	>50
3.23					
4.00	50／2			50／2	>50
4.02					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日
						02/27
						03/01